令和3年1月実施

埼玉県神社庁

管内の宮司261人を対象に年末年始の実態調査をお願いした所、178人の方からご回答を戴きました。 年明けのお忙しい時期にお願いしたにも関わらず、多くの方よりご回答戴きました事に感謝申し上げます。

令和3年4月現在においても、新型コロナウイルスの感染が再拡大し、全国各地に「まん延防止等重点措置」が適用されております。また感染力の強い変異種の感染者も増加傾向にあります。県内各社の神職総代各位におかれましては、今後もご社頭における感染症対策に万全を期していただきますようお願い申し上げます。

昨年来、当庁は、新型コロナウイルス感染症予防対策として「変わらない祈りのために」キャンペーンを三十都府県神社庁と協力して実施して参りました。活動内容は、ガイドライン・チラシ・ポスターの作成と配布、SNSを活用した発信、ガイドライン説明会の開催、政府や地方自治体への渉外、マスコミ対応などです。活動に当たっては、多くの人々が参拝する秋から冬にかけて如何に安心してお参り載くかを当面の目標に致しました。

さて、今回の調査結果を見ますと、各社によって状況は様々でした。しかし、8割近くの神社で年末 年始の参拝者数が、例年に比べ減少し、その傾向は特に正月三日間が顕著でした。引き続き第3回目の 実態調査を行い、3月末までの状況から「分散参拝」の実際を検証したいと考えております。

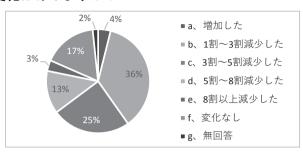
本報告では、各社の御祈願における感染予防対策や「変わらない祈りのために」キャンペーンについて記述戴いたものも掲載しております。言い回しや表現は記述いただいたものをそのまま載せておりますが、内容が重複するものは一部割愛をさせて戴きました。ご了承いただければ幸いです。

加えて本調査ではWEBによる研修や神社庁からのお知らせのオンライン化についてもお伺いしました。WEBによる研修は、今後も適切に活用していきたいと思います。お知らせのオンライン化(ペーパーレス化)についてはご意見が分かれております。しかしながら迅速な情報発信や支部事務局の負担軽減、経費削減には一定の利点もありますので、今後も管内の皆様のご意見を伺いながら進めて参りたいと考えております。ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

対	計象:宮司職	(本務・兼務	5)
支 部	依頼数	回答数	回答率(%)
北足立	40	27	68
入間東	24	19	79
入間西	34	28	82
比企	19	7	37
秩父	31	19	61
大里児玉	51	35	69
さきたま	33	20	61
埼玉東	29	20	69
不明		3	
合計	261	178	68

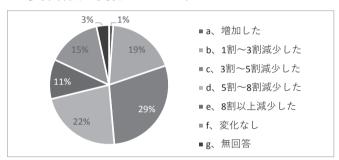
1、年末年始は例年に比べ、参拝者数に変化はありますか?

а	増加した	7
b	10~30%減少	65
c	30~50%減少	44
d	50~80%減少	24
е	80%以上減少	6
f	変化なし	30
g	無回答	3



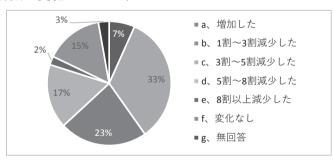
1-1、1月1日の夜中は例年に比べ、参拝者数に変化はありますか?

a	増加した	2
b	10~30%減少	33
С	30~50%減少	51
d	50~80%減少	40
е	80%以上減少	19
f	変化なし	26
g	無回答	6



1-2、三が日は例年に比べ、参拝者数に変化はありますか?

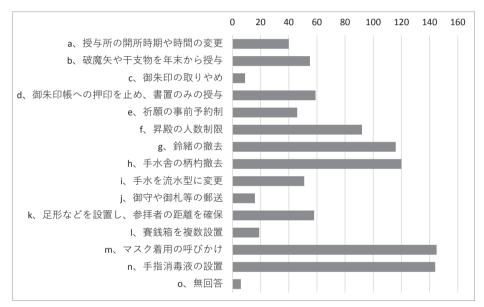
a	増加した	12
b	10~30%減少	60
c	30~50%減少	41
d	50~80%減少	30
е	80%以上減少	4
f	変化なし	27
g	無回答	5



2、年末年始の新型コロナウイルス対策としてどのような対応をしていますか? (複数回答)

a	授与所の開所時期や時間の変更	40
b	破魔矢や干支物を年末から授与	55
С	御朱印の取りやめ	9
d	御朱印帳への押印を止め、書置のみの授与	59
е	祈願の事前予約制	46
f	昇殿の人数制限	92

g	鈴緒の撤去	116
h	手水舎の柄杓撤去	120
i	手水を流水型に変更	51
j	御守や御札等の郵送	16
k	足形などを設置し、参拝者の距離を確保	58
1	賽銭箱を複数設置	19
m	マスク着用の呼びかけ	145
n	手指消毒液の設置	144
О	無回答	6



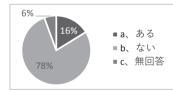
2-1、上記以外の対応があれば、詳しくご記入ください

- ・御神矢にビニールカバーを掛けた
- ・頒布物に番号を振り、選択していただくことで、参拝者が直接手を触れないように対応した。金 銭の授受も非接触での対応とした
- ・授与所担当職員はビニール手袋を着用
- ・釣り銭のアルコール消毒
- ・自由参拝のみ。一般祈祷の取り止め
- ・元旦午前と夜間に兼務社の授与所閉鎖
- ・疫病消除御祈祷神璽の御札を各神社に配布
- ・拝殿内にパーテーションの設置
- ・拝殿を拡張し、祈願者の収容率が下がるようにした
- ・賽銭箱を拝殿階段下に移動し、7、8人同時に離れて参拝出来るように大きな賽銭箱を作成した

- ・参拝者の通路を一方通行にした
- ・立て看板や横断幕を設置し、マスクの着用や大声での会話の禁止を掲げ、参拝者の列を制限した
- ・三が日、YouTubeライブ配信を行い、参拝者に混雑状況を知らせた
- ・露天商を1月8日からの出店とし、すべて持ち帰り販売とした
- ・事前に氏子に対し、分散参拝を周知徹底
- ・手水舎を「花手水」とし、使用を中止した
- ・「ミソギの御門」と称する結界を仮設。これをくぐることにより「心身の清浄」が得られる形と した。(手水舎には同説明文を掲げる)
- ・臨時奉仕者も含め、全ての職員の検温、定期消毒の実施。警備員休憩所の分散
- ・職員共有白衣を毎日洗濯
- ・職員でなく、氏子総代・協力者の家族に感染者・濃厚接触者が出た場合の連絡 (その班の行事参加を中止するため)
- ・平日、休日の官庁など、連絡網の提示・周知
- ・医師に相談し、急変に対応するため抗炎症薬を用意するよう、お話した
- ・だるま市のかけ声、手拍子等自粛
- ・ホームページ開設

3、氏子・崇敬者から新型コロナウイルス対策を求められたことはありますか?

a ある 29 b ない 140 c 無回答 10



3-1、どのような内容ですか?

- ・ 各施設(社務所やトイレ等)の使用制限
- ・感染症対策の徹底(マスク着用や手指消毒液の設置)
- ・祭典斎行時の注意(昇殿人数の制限や祭典の中止対応)
- ・参拝者の間隔を取るように対策を求められた
- ・年末年始にどのようなコロナ対策を取っているのか多数問い合わせ
- ・体温測定器およびフェイスシールドの用意
- ・直会の簡略化(中止、弁当等持ち帰り対応)
- ・年末年始授与所の開所時間延長
- ・参拝後感染した場合、責任の所在について問い合わせ
- ・鈴緒の撤去
- ・飛沫防止用のパネル・シートの設置や手袋の用意
- ・参拝中に体調が急変した方がでた場合、どのような対応を取るのか

・代理祈祷(参拝)はOKか。玉串は代表のみとなるのか

4、御祈願において感染予防上取り組んだ事や工夫がありましたら教えて下さい。

- ・受付にアクリル板を設置
- ・予約制にして、1回に一組ずつ行った
- ・ネットからも祈願予約を受け付けた
- ・屋外に祈願所を設置した
- ・拝殿の窓を開け、通気性を高めた
- ・昇殿時検温し、マスクの着用と手指の消毒を徹底した
- ・拝殿内に神職と祈願者を区分けするビニールシートを取り付けた
- ・拝殿をアクリル板・ビニールシートなどで8区画に仕切り、一度に8家族まで祈願を行った
- ・拝殿内にコロナ感染症対策ピクトグラムを使用して、参拝者に見えるようポスターを掲示した
- ・各所に空気清浄機や加湿器を設置した
- ・胡床を祈祷毎に消毒した
- ・昇殿参拝路を一方通行とした
- ・祈願人数を制限した。その分、回数を増やした
- ・祈願を代表者のみ昇殿とし、玉串は代表者1名とした
- ・祈願を座礼から立礼に変更し、住所の番地、生年月日の読み上げを省略し、時間短縮に努めた
- ・神職がマスク、フェイスシールドを着用して奉仕した
- ・祈願者は昇殿なしとし、神職のみで奉仕した。祈祷済みの授与品を授けてから拝殿内にて拝礼いただいた。授与品の郵送無しとし、直接神社へ受け取りに来ていただく形となった
- ・玉串奉奠を止めた。結果祈祷時間の短縮に繋がった
- ・玉串奉奠を止め、拝礼とする。代わりに鈴祓いを行った
- ・玉串奉奠を神職が行い参列者は列拝した。御神酒を中止した
- ・玉串を受け渡す際、神職が手袋を使用した
- ・玉串参拝をした方は、祭典終了後、手指消毒をしてもらった
- ・授与品を受け渡す際、神職が白手袋を使用した
- ・祈願は代表者のみ昇殿とし、玉串は代表者1名とした
- ・神職がマスク、フェイスシールドを着用して奉仕した
- ・郵送祈願を推奨した
- ・交通整理専門会社に依頼した
- ・同行者の待機場所となる部屋に祈願の様子がわかるようにスピーカーを設置した

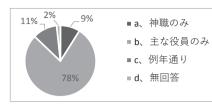
5、祭典(例祭や恒例祭)の参列状況について

a 神職のみ 16

b 主な役員のみ 140

c 例年通り 20

d 無回答 3



6、祭典の規模縮小及び中止を決める過程で、どの様な事に苦労しましたか?

- ・どの範囲で参列案内を出すのか。また、参列できなかった人へのフォロー、謝罪文の発送など
- ・案内状を発送するも、参列者がどれくらい来られるか予測が立たなかった
- ・地域の会議では神職に相談無く中止が決定された事例が少なくなかった
- ・早め早めの対応と回覧等により周知させることに苦労した、氏子総代の理解を得ることに苦労した
- ・祭典の縮小が続くと氏子や神輿の担ぎ手、祭典来賓者との関係が薄れてしまわないか危惧している
- ・祭典を行うにあたりの準備、次年度への引き継ぎがスムーズに行えるかどうかの不安があった
- ・市内の行事、イベントは中止しても祭典は中止にしてはならないことを伝えるのに苦労した
- ・規模縮小を判断する時期が難しかった。直前の感染状況で急に予定が変更となった
- ・役員、氏子との電話連絡に時間がかかった 留守電をみた役員が来てしまうことがあった
- ・役員他関係団体の意見集約に苦労した 高齢のためリモート会議もできず難儀した
- ・縮小と案内したところ「中止」と勘違いされ、村中に伝わってしまった
- ・祭典を厳粛に行えるのか 荘厳なお祭りとなるのか不安があった
- ・規模縮小の形が今後の通例とならないように、周知徹底している
- ・例祭は5人奉仕だが、今回は宮司1人奉仕とした。宮司1人で立派な祭典が出来るのなら、今後 助勤神職はいらないのではないかという意見がでた
- ・祭典参列は、青年部に声をかけ参列をすすめた。役員は高齢なので、ほとんど参列されなかった
- ・直会の手配や内容変更、記念品や弁当の手配に苦労した
- ・今期の祭典負担金の集金をやめた
- ・祭典終了後に氏子へ配布する御札を直接当番(世話人)へ配布出来なかった
- ・神札を受けてもらう行事については、祭り当番行事に神札募集方を願い、郵送等にて神札を発送した
- ・車での神輿渡御は各町会での祝詞奏上を略し、例年のコースを車の台数を減らして停車せず巡幸した
- ・社殿内は宮司と総代長2名とし、他総代は境内で参列いただいた。直会は安心してもらうよう、 紙コップとした。食事無しで料理折詰をお土産に準備した
- ・里神楽や太鼓連の奉納演奏をどのような状況になったら再開できるのか見通しが立たないこと
- ・里神楽や獅子舞などの伝統芸能継承への危惧 再開の見通しがないこと

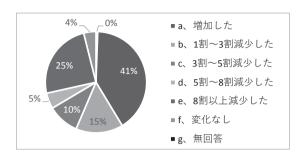
7、前年の同時期(10~1月)に比べ、祈願数に影響ありますか?

a 増加した 1

b 10~30%減少 73

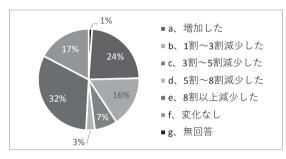
c 30~50%減少 27

d 50~80%減少 18 80%以上減少 9 変化なし f 44 無回答 7



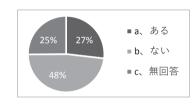
8、年々の同時期(10~1月)に比べ、外祭数に影響ありますか?

a 増加した 10~30%減少 42 30~50%減少 29 50~80%減少 13 e 80%以上減少 5 変化なし 57 g 無回答 31



9、助勤神職・巫女の依頼人数に影響はありますか?

- ある 48 а ない 86 h
- c 無回答 45



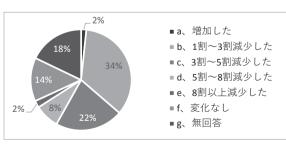
10、他社に助勤に呼ばれる回数に影響はありますか?

a ある 54 b ない 80 c 無回答 45



11、前年の同時期(10~1月)に比べ、社入に影響がありましたか?

a 増加した 3 10~30%減少 h 62 30~50%減少 39 d 50~80%減少 14 e 80%以上減少 4 f 変化なし 25 無回答 g 32



12、神社庁で新型コロナウイルス対策として実施した「代わらない祈りのために」キャンペーンを知っていますか?

- a 知っている 142
- b 知らない 6
- c 無同答 31



12-1、「神社における新型コロナウイルス対応ガイドライン」は参考になりましたか?

а	なった	119
b	ならない	3
С	どちらとも言えない	26
d	無回答	31



12-2、チラシやポスターは役に立ちましたか?

a	なった	108
b	ならない	7
С	どちらとも言えない	34
d	無回答	30



12-3、本キャンペーンについて、何かご意見がございましたらその内容をご記入下さい。

- ・対応ガイドラインを提示し、神社総代の対応を適正に理解してもらった
- ・氏子総代がキャンペーンのチラシを氏子全体に回覧してくれた
- ・年末から年始にかけて分散しての参拝が非常に出ている。三が日が全体の4分の1であり、4日 以降は例年以上の参拝者数となっている
- ・神社庁の素早い対応は良いです
- ・埼玉県が先導して、行政・政府にかけあってくれたこと感謝しています
- ・とても良かった。参考に看板をオリジナルで作成した
- ・チラシはデザインや色使いが若者向きで、やわらかな表現で良かったと思う。ポスターについて は、神社本庁のアイコンを自由に入れ替えられるものの方が使いやすかった。
- ・ポスターは大変役立ちます。色も良かった。デザインも良かった。もっと枚数多くいただきた かった
- ・チラシやポスターを事前配布して頂き、助かった
- ・兼務社の役員・総代にホームページを案内して、理解を得た。ポスターの印刷もスムーズだった
- ・参拝者も意識が高く積極的に消毒液を使用していた。社殿では間隔を保って参拝を行っていた。 ポスターでの呼びかけは効果が大きいと感じた
- ・時宜を得たキャンペーンであった

- ・TVニュースで放映等、全国へ大きな影響を与えたと思う。神社界では全国をリードして誇りに 思う。これが無かったら、初詣自粛等になっていたかもしれないと思う
- ・幟も作られてはどうか
- ・キャンペーンにプラスして各神社の対応がなくてはならないと思われる
- ・キャンペーンを行うことは良いことだが、参拝者数、境内の広さ、地域の氏子数に地方神社と都 市近郊神社に極端な差があるため、一律に同じ内容を出す意味はないのではないか
- ・考え方に差があることなのでガイドラインだけで良かったと思う。方針に合わないポスター・チラシは利用出来ない上、世の中で注意が促されているので、チラシなどの必要性は感じなかった。ガイドラインは社内の意識共有に役立ったが、ワードなどで自社用に加工できればさらにありがたい
- ・祭典について氏子総代(役員)等への教化パンフ等の必要があると思う
- ・社頭においてはコロナ対策(マスク着用の呼びかけ、足形等)を全面に出すべきではない。神社 で出来る対策を神社として行い、神社に参拝するかどうかは個人の判断にゆだねるほうが良いと 思う
- ・授与品を年内頒布にすると、正月からの頒布予定の神社に影響があるのではないか

13、新型コロナウイルス対策について、神社庁に要望する事がありますか?あればその内容をご記入下さい。

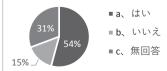
- ・当分コロナ禍が続くと考えられる為に、現状に対応できる呼びかけチラシを考案してほしい
- ・庁の方針のお知らせ
- ・初詣の前倒し(幸先詣)をやっていて、当然のように参拝者が多く来社した。当社は後倒しを推 奨していた為、正直に言えば迷惑した
- ・「年末年始密をさけて、安心の御参拝を」に代わるポスターの作成
- ・民社が対応できるような施策、方向付けを示していただきたい
- ・具体的なコロナ対策の事例を紹介してほしい
- ・会議が減少しているので、リモート・WEB会議を増やしてほしい
- ・終息祈願祝詞例文を提示

14、本年度はコロナ禍により研修をインターネットを利用したWEB研修を主として実施していますが、今後も続けた方が良いと思いますか?

a はい 97

b いいえ 27

c 無回答 55



- 15、新型コロナウイルス対策で今後神職として取り組んでいくべき事がありますか?神職間で情報共有したいこと等、設問にあげていないことで意見や質問等ありましたら、ご記入ください
 - ・手水を流水型にする、祈祷人数を制限する等神社神道の根幹に於いて、守るところは絶対守らなくてはならないし、変えるところをどこまで変えていいのかが課題
 - ・三が日のYouTube配信は、青年部の全面協力で既存の防犯カメラを使用して、ほとんど費用が かからず実現した。今後行事等にも活用していきたい。コロナ渦で、人が集まることが難しい場 合、祭りや行事を行う手段として活用してはどうか
 - ・withコロナをもっと具体的に捉えるべき。終息はない前提で物事に取り組むのが良い
 - ・神事芸能の再開に向け、改めて対策を纏める必要がある
 - ・歴史的にもめったにない現状のなかで神社界が氏子崇敬者に呼びかけるべきことは何か?身体の 健康はまさに大事である。それと共に「心の健康」を整え、安心のなかで行動出来る様にする役 割が神社界、神職のまさに本義と考えています。「祈り」の大切さを啓蒙する呼びかけが必要で ある
 - ・祭式の作法にマスクの着脱を取り入れるには、どのようにしたら最適なのか知りたい。祝詞奏上 の前後で付けたり外したりしているととても違和感がある。けれど、マスクを着用しないという 訳にはいかないので、悩んでいる
 - ・コロナ禍を理由に行ったことで一線を越えてしまったこともあるように思う。 (祈願者の制限、 オンライン祈願や祭祀、アマビエ、祭典の縮小、神社は神職と役員のものなのか)
 - ・地域によって対応の違いがあるから、このことについても情報について発信してほしい
 - ・兼務社に関すること、小さな神社の対応等の情報を県内で共有したい
 - ・自社からコロナを絶対出さないという緊張感を持つことが必要と考えます
 - ・コロナの感染拡大により、身近なところにまで感染者が出現すると思う。そんな場合の対処の仕方、祭典の実行について、Q&A方式等。(近所の神職から年末に、近所でコロナ死亡者が複数出た。どうしようとの質問があった)
 - ・充分に取り組んだと思います。今後はあまり不安をあおるような発信は避けるべき
 - ・第一に、暗い空気を払う言葉や祈りを発信していきたい。第二に、言われなくとも対策し、仕切ってくれる人がいる。その方たちが居るので乗り越えられる。記録して残す必要がある
 - ・コロナ対策をしっかりとり、本来のご奉仕をする
 - ・祭典縮小が一年間行われてきましたが、本務・兼務社ともに総代・氏子の神社離れを危惧する意見も多くあります。コロナ禍中の縮小はしかたがないとは思いますが、その中でも神明奉仕の大切さをしっかり伝え、神社離れを食い止めていきたい

16、神社庁からのお知らせをインターネット利用した方法に 変えた方が良いと思いますか?



61

b いいえ

59

c 無回答

59

■ a、はい ■ b、いいえ ■ c、無回答

■a、はい

■ b、いいえ

■ c、無回答

17、神社庁ホームページに「神職専用ページ」を解説しま したが、ご存じですか?



104

b いいえ

35

c 無回答

40

17-1、「神職専用ページ」を見たことがありますか?

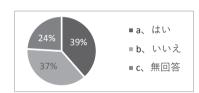
69

b いいえ

67

c 無回答

43



- 18、オンライン化 (ペーパーレス化) について、何かご意見があればお書き下さい。
 - ・オンライン化できるものはオンライン化すべきです。
 - ・オンライン化のマニュアル作成や使い方の講習会の開催
 - ・神職間の連絡もFAXからメールに変えていただきたい
 - ・神社本庁―神社庁―支部間までであれば可
 - ・不鮮明な書類 (Fax) 等が届くより、PDFやWord文書で頂いた方が活用しやすい
 - ・試験運用を始めても良いのでは?
 - ・やるなら当面はサブ的にして、連動させたらどうか?
 - ・支部事務局負担軽減と情報伝達のスピードアップのため、積極的に前に進めるべき。情報弱者へ のケアは庁の方針に則り支部で取り組むこと
 - ・総会、関係者大会の動画配信(アーカイブ有)
 - ・コロナウイルスが収束したら、出来る限り意見交換の場が必要と考える
 - ・徐々にオンライン化は必要です
 - ・高齢神職の存在に配慮し、ペーパー(郵便・FAX)との併用も必要と思う
 - ・WEB研修について、若い職員、神職は良いと思うが、高齢神職は利用しないと思う
 - ・できれば文書がありがたい。反面、時代柄オンライン化もやむを得ないかもと思う
 - ・メールの数が多く、必要なものとそうでないものがわかりにくい。大切な用件はメールとFAX を併用していただくと良い

- ・受信する側も送る側もゆとりある期間で発信する等のことはした方が良い(会議2週間前に会議 の案内が来ても対応できかねない。マナーとして1ヶ月前には出すと聞いて居たことがあるの で、お互いになれるまで、1ヶ月に少しゆとりを持った連絡が必要かと思う)
- ・オンライン化は必要だと思うが、インターネット環境を持たない人への配慮も必要
- ・経費削減につながるのであれば、賛成です。しかし、FAXメインの支部状況からすると、移行 は厳しいのでは。(自分はFAX持っていないので、現状は不便です)
- ・庁報のPDF公開などは資料性が高く役立っています。通知類は従前の方が良いと思う
- ・一方的な通知ではなく、双方向的なペーパーレス化を
- ・オンライン化は賛成ですが、FAX (訃報や緊急連絡等用) も通信手段として、少し残しておく と良いと思いました
- ・全部をペーパーレス化することは難しいのではないか
- 見過ごすことが多くなると思います
- ・オンライン化は時代の流れで進めるべきでしょうが、今回のコロナ禍が証明しているように、インターネットが使えなくなる未来も視野にいれるべきだと思います。歴史に学ぶとはそういうことでしょう。
- ・パソコンをまったく使用したことがない。禰宜がお知らせを100%知らせてくれれば良いが、漏れ もあると思うし、私に知らせるには印刷しなければならない
- ・せめて神社界だけでもオンライン化はしない方が良い
- ・当社はまだ電波状況が悪く、オンライン会議にも支障が出ているので、現在も問題となっている
- ・ただでさえ年配の多い、殊に「慣例」を護持する斯界には、未だ時期尚早であり、なじまない。 しかしコンセンサスが取れた上での、連絡のみの手段としては、将来的にかなり有効であると思う
- ・兼務社を含め、対応を求められるものに関してオンライン化は難しく思います。通知的なものは可
- ・紙ならではの良さもあります。 (紙ならではの手触りや物質感覚、停電に左右されぬ、バッテリーもいらぬ、100年、500年というスパンで保存など考えたら、やはり紙が確か?)
- ・ウイルス感染した場合、情報の流出をとめることができるのか、不安である。
- ・全ての案件をオンライン化すると見落とし等で気がつかないことがあった場合、心配です
- ・現在、一都七県神社庁が当番になり持ち回りにて「中堅研修」が行われるが、今後早い時期に、 ネット環境を整えリモートにて研修が受けられるように神社本庁に申し入れをお願いしたい。中 止が続くと職員の研修のタイミングが遅れ支障をきたしかねない